

THE GRANPHONIC CONCERT III

三者三様Ständchen

～あなたはどの「シュテンчен」なら心をひらいてくれますか？～

- 1：秘めたる想いは生真面目 Brahms
- 2：お洒落に優雅にダンディ Strauss
- 3：あの手この手で健気な Schubert

編曲：なりた まさと

指揮：成田 正人

ピアノ：西野 亜理紗

メゾ・ソプラノ：夏目 久子

合唱：グランフォニック

男声合唱のための歌曲集

夜の静寂 (しじま) に

- 1：しぐれに寄する叙情

詩：佐藤 春夫 作曲：大中 恩

- 2：宵待草

詩：竹久 夢二 作曲：多 忠亮

- 3：夢のあと（「優しき歌」から）

詩：立原 道造 作曲：柴田 南雄

- 4：さくら横ちょう

詩：加藤 周一 作曲：中田 善直

編曲・指揮：向川原 憲一

ピアノ：西野 亜理紗

合唱：グランフォニック

東西四大学OB合唱団東海「グランフォニック」 第3回定期演奏会

2000年10月28日(土)
PM4時開場・PM4時30分開演
名古屋市芸術創造センター



夜の歌によるコラージュ・メドレー
月光セレナーデ

1：子守唄

～マルク・シャガール＜時の流れには岸が無い＞によせる
眠りの精のメドレー～

2：仮面舞踏会

～エドヴァルト・ムンク＜生命のダンス＞によせる
マスカレードと愛のささやきのメドレー～

3：月の光

～ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ＜星月夜＞によせる
沈黙の闇と天体の輝きのメドレー～

4：夜の女王のアリア～誰も寝てはならぬ

～アンリ・マティス＜サーカス＞によせる
夜の賛美のメドレーとフィナーレ～

選曲・構成・編曲：橋本 剛

指揮：向川原 慎一

ピアノ：三ツ口 朱野

弦楽アンサンブル：オーネンストリングス

合唱：アンサンブル シオン

アンサンブル円

グラソニック



不破臼人 (ふわ・うすと) の恋

～ゲーテ「ファウスト」の構図を借りたひとつの物語～

* フォルシュピール (Vorspiel)

1：オレの人生

2：優しき人よ

3：楽しまなくちゃ！

4：若返ろう

* インテルメッツオ (Intermezzo)

5：あなたのままで

6：夕日が優しいのは

* ナッハシュピール (Nachspiel)

作：なりた まさと

指揮：成田 正人

ピアノ：水野 勝

暮糸翡翠 (くれいと・ひえん)：橋爪 圭子

冥須戸絵梨寿 (めいすと・えりす)：夏目 久子

不破臼人：池田 研一

田中 良夫

常務：黒田 泰男

営業部長：富田 敏夫

臼人の分身・世間の人々：グラソニック

演出：池山 奈都子

照明：曾我 裕幸

舞台監督：野村 八千代

THE GRANDPHONIC CONCERT III

●曲目解説

1)

三者三様のシュテンчен

Kenko

シュテンчен。セレナードのことです。古い昔から、西洋では敬慕する女性の窓辺でリュートやギター、マンドリンを伴奏に音楽を奏するという習慣があり、この音楽をシュテンчен、セレナードと呼んで、詩や絵画の題材にも登場しました。19世紀になるとセレナード又はシュテンченと名付けた小品がたくさん書かれます。歌が多いのですが、独奏曲や小規模な合奏曲もありました。

Brahms の シュテンчен。 ブラームスにはこの種の曲が合唱を含めて 6 曲ほどありますが、その内最も有名なものが今回のものです。ギターを模したピアノ伴奏にのって、セレナードを奏てる明るく屈託のない若者たちを、ドイツの学生歌のような雰囲気で描き出しています。

近代ドイツ歌曲の第一人者、リヒャルト・シュトラウス。このシュテンченは彼が 22 歳のときイタリアへ旅した年の作です。夜風のそよめき、小川のせせらぎ、心のときめきを思わせるピアノの前奏に導かれ、語りかけるような短いフレーズが次々と湧きいで、南欧の甘く物憂い夜の庭へと誘います。有名な交響詩「イタリアから」と共にシュトラウスのイタリア土産と言えましょうか。

シーベルトのシュテンченといえば、まず思い浮かべるのは「白鳥の歌」の 1 曲。けれど今日の合唱曲もなかなかのもの。ピアノ伴奏付の男声合唱とアルト独唱という豪華な構成、ブラームスはこれを知って名曲アルト・ラブソディを書いたのです。そして高名な詩人グリルパルツァーの詩は少し渋く、ときに故事を引いて街学的に、また大いに感情を盛り上げ、セレナードの何たるかをうたいます。

さて、今宵の「三者三様シュテンчен」、皆様の心に一番深く響くのはどの歌でしょうか。

夜の静寂に

森重 雅夫

雪に月に花に、そして雨や風に、四季折々に自らの心情を託して謳いあげる日本の詩人達。その作品群に美しいメロディーが寄り添い、詩は輝きを増す。日本歌曲の名作4曲。時には甘くしなやかで、時には力強く重厚な男声合唱の魅力を、ご堪能ください。

1. しぐれに寄する抒情

佐藤春夫（1892-1964）：詩人・小説家。『殉情詩集』など古典的な格調の抒情詩で知られ、のち小説に転じ、幻想的・耽美的な作風を開いた。小説『田園の憂鬱』『都会の憂鬱』『晶子曼陀羅』など。

…初冬の谷間に、サッと時雨が通り過ぎる（その行く手は、想う人の住む村辺りか…）。「あなたを想つて、私は今夜も眠らない。ああ、恋はどうしてこんなにも苦しく、切ないものなのか。あの人に告げてくれ、時雨よ、時雨よ！」恋する想いを、あからさまには口に出せない、日本人の床しさ、愛おしさ。

2. 宵待草

竹久夢二（1884-1934）：画家・詩人。画集『春の巻』を刊行以後、独特の甘美な哀愁をたたえた抒情画は、当時の若い男女の心を魅了した。

…日の暮れるのを待ちかねるように聞く、大輪の花（明け方には萎んでしまうというのに）。そして月の出ぬ宵も、恋人を待ち続ける少女。夢二の美人画のように儂げだが、一途に若者を想い、漆黒の闇夜をも恐れぬ強さを秘めて。オクターブの跳躍は、主人公の決意。コーラスの口三味線は、遠く聞こえる夏祭りの囃子、または少女の胸の高鳴り？

3. 夢のあと

立原道造(1914-1939)：詩人。堀辰雄やリルケに傾倒。繊細・純粋で音楽的な抒情詩を書いた。24才で夭逝。作品に、『萱草（わすれぐさ）に寄す』『暁と夕の詩』など。

…舞台は軽井沢の山荘、季節は夏の終わり。下界では残暑が続くというのに、ここは早くもススキの穂がゆれ、秋風が吹いている。夏の間続いた恋も、最近はギクシャクとして、どこかよそよそしい（女に新しい恋人でもできたか？）。しかし、切れる切れないの喧嘩騒ぎは真っ平ご免、愁嘆場を演じる元気もない。早い冬の訪れまで、ひっそりとこの透明な静寂の世界に浸れるなら…。だが、詩人の眼は、その静寂のさほど遠くない場所に、【エロス】（宴・生）の果ての【タナトス】（終焉・死）を凝視している。

4. さくら横ちょう

加藤周一(1919-)：現在も活躍する文芸評論家。…桜の季節になると、別れた恋人のことを思い出す。春には、いつも二人で花の下をそぞろ歩いた（今も花陰に浮かぶ、桜のように白い肌）。「その後どう？」以下は主人公の見た真昼の幻想か、はたまた一人芝居のモノlogue？最後には、その想いを吹っ切るかのように、花見の群衆の渦（大都会の孤独）の中に溶け込んでいく。佐藤春夫の『殉情詩集』の中の「少年の日」と題する四行詩の一作「春」に、「野ゆき山ゆき海辺ゆき 真ひるの丘べ花を籍き つぶら瞳の君ゆゑに うれひは青し空よりも」そして、与謝蕪村の俳句に「愁ひつゝ岡にのぼれば花いばら」と詠われています。この詩もそうですが、春の盛りに、恋人のことを想って愁いに沈む若者の心情は、昔から変わらないものなのですね。

月光セレナーデ

橋本 剛

この編曲作品は、2000年10月28日 東西四大学OB合唱団東海 第3回定期演奏会のために書き下ろしたもので

す。委嘱を受けたのは1999年夏の事で、「古今東西『夜』にちなんだ曲による、楽しくて薫り高い編曲ステージを」というお話をでした。丁度その頃私は幾つかのメドレーを書く機会があり、その面白さや可能性に惹かれていましたので、今回もメドレー方式を使わせて頂く事にしました。

メドレーという形式は、知っている曲が次々と現れる、宝箱をひっくりかえした様な華やかさにこそ醍醐味があるといえますが、もともとそれぞれに完結している曲と曲を、敢えて「つなげる」「混ぜる」事によって、新しい何かを生み出すという積極的な態度のメドレーもまた一つの方向だと、以前から考えていました。

その意図を、今回の編曲作品では「形式」という面に最も反映させる結果となりました。メドレーとしての「楽しさ」を失わせず、かつ構成的には交響詩やオラトリオ、或いは多楽章形式のセレナーデの様な、「薫り高さ」を担わせようと考えたのです。勿論それはあくまで擬似的な形式であって、本物の作曲作品の様に完璧な形式を築きあげた訳ではありません。もしかしたらそれも可能であったのかもしれません。もしかしたらそれも可能であったのかもしれません、私がたまたま選び出してきたというだけの数曲の組み合わせに対して、その様な完結性を持たせる事は、あまり意味がない事です。むしろ私が意図したのは、そうした形式をパロディとして用

いる事で、薫り高い様でいてどこか可笑しい、そんな状態でした。

また構成に重量を持たせたのに対し、1曲々々についてでは、今回殆ど飾り立てず、シンプルに用いることで、原曲の持ち味を楽しんで頂ける様に心掛けています。

全体は4つの楽章からなり、それぞれの楽章は、副題に掲げられた絵画の印象と重ね合わせられていますが、特に第Ⅲ楽章のゴッホ「星月夜」は、この編曲作品全体のイメージでもあり、物語の舞台でもあります。この絵に描かれた町の様々な夜の情景を想像し、各楽章ごとに写し取った形となっています。どの様な情景かは、きっとすぐにお分かり頂けるでしょう。皆さんもこの町の住人の一人となって、夜の町を散策して回ってみて下さい。

全く説明の必要のない有名な曲から、知る人ぞ知る名曲まで沢山の曲が現れます。皆さんには、いくつの曲が使われているか、お分かりになるでしょうか…？

最後になりますが、今回の編曲の機会を与えて下さった合唱団の皆様、演奏して下さる皆様、協力、応援して下さった皆様に心より感謝致します。



夕陽が優しいのは

なりた まさと

朝日と夕陽が別物だと感じたのは、一体いつの頃だったのか。

高校時代、「日」と「陽」を使い分ける先人たちの繊細さに驚いたものですが、それを本当に実感したのは、ここ数年のような気がします。

私の音楽物語シリーズも、この『不破白人の恋』で12作目となりました。男声合唱用のものとしては3作目に当たり、30代のサラリーマンを通して“家族愛”を描いた『パパの子守歌』、10代の少年を通して“友愛”を描いた『絵描きと少年』に続く、<愛の三部作・完結編>と位置付けました。今度は“恋愛”です。

そろそろ会社人生の黄昏どきを迎えた50代の男(不破白人)が、ふと出会った女性(暮系翡翠)に恋心を抱く。「もう10歳も若ければ」と呟く男に、モグリの医者(冥須戸絵梨寿)が遺伝子操作で若返らせてあげると持ちかける。但し、「もう生きるのはたくさんだ」と口にした途端、身体がボロボロになって生きていられなくなるという条件付きで。男はそれでも構わないと契約書にサインを… お気付きの通り、この構図は文豪ゲーテの『ファウスト』から借りたものです。この世に満足したとき魂を渡す条件で悪魔メフィストフェレスと契約し、20代の若さを手に入れたファウスト博士。しかしグレートヒエンとの恋愛も、古典美の典型ヘレナとの結婚も満足には至らない。さまざまな悩みと試みの末、万民のために尽くすことで漸く本当の満足を得る。そこでメフィストフェレスは契約行使しようとするが、グレートヒエンの靈の援けによって、魂を取

られることなく天上へ昇ることができた。…かの超大作を乱暴に縮めるところなりますが、勿論『不破白人』のストーリー自体はまったく異なります。

実は、某団員から「前2作は歌いながら泣けてきて仕方がなかった。それも良いけれど、今度は笑えるものにしてみてくれないか」との申し出があり、一転コミカル路線を走ることにしました。かなりミュージカル色を濃くしたため、翡翠役で橋爪先生、絵梨寿役で夏目先生にお手伝い頂き、池山先生に演出をお願いしてパワーアップを図りました。今宵我々の演技力が試されます。お父さんたちの涙ぐましい努力の成果をお楽しみ下さい。今までの作品と同様、少しでも“生きるエネルギー”をお届けできればと願っています。

さて、冒頭の夕陽の話。

男は(女もでしょうか?) いつまで経っても少年の頃の夢を心に抱き続けているものです。(まさに“夢は眠らず”) そしてその夢がすべて満たされることなど、まず有り得ません。それどころか、現実は随分かけ離れたものになってしまっているのが大方でしょう。ならば、その人生は無駄だったのか?いや、決してそうではないはず。そう思えたときから、夕陽を見る目が変わりました。

夕陽が 夕陽が優しいのは
きっと その日一日の 悲しいことや辛いこと
すべてを だまって抱きとめて
持つて帰ってくれるから

明日へののぞみを 与え続けてくれるから

夕陽には人の心をなごませる力があります。朝日の力強さの魅力とはまた別の、懸命に“生きてきた”者にしか醸し出せない味とでも申せましょうか。夕陽の大きな愛に癒され励まされながら、人はそれぞれの営みを重ねて行く。さまざまな人生を背負った男たちが、今宵皆様に、そして自らにエールを送ります。自分の歩んだ道の重みを信じて…

●
プロフィール

THE
AMPHONIC
CONCERT III

池山 奈都子：演出

名古屋音楽大学声楽学科卒業。名古屋市文化振興事業団、名古屋オペラ協会、名古屋二期会などの諸団体のオペラ・ミュージカル公演において数多くの演出家の助手を務め、神戸・大阪などのオペラ公演でも活躍。1992年演出家デビュー。

「オルフェオ」「香妃」「リゴレット」「ヘンゼルとグレーテル」「カルメン」などの演出をはじめ、女声合唱団やオペラの名曲が気軽に楽しめるコンサートの演出も手掛けている。

夏目 久子：メゾソプラノ

同志社女子大学音楽学科声楽専攻卒業。関西、名古屋二期会、大阪喜歌劇楽友協会、名古屋文化振興事業団などのオペラ、オペレッタ、ミュージカルに多数出演。

現在、名古屋二期会会員。2000年8月の3度目のドイツ演奏旅行中、南チューインゲン日独協会名誉会員に任命される。

橋爪 圭子：ソプラノ

愛知県立芸術大学音楽学部声楽科卒業。オペラ、創作オペラ、各種コンサート、ミュージカルに多数出演。その他、ドイツ歌曲やアメリカの歌によるリサイタルを6回開催。

現在、同朋高校音楽科及び名古屋音楽学校講師。名古屋二期会会員。

西野 亜理紗：ピアノ

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。田中典子宇野恭子、市田儀一郎、萬歳典子、竹中勇記彦、各氏に師事。'91TV愛知主催“NewClassic Artist”'93ピアノ・ソプラノデュオリサイタル、'96スタジオ・ルンデ主催<X>コンサートに出演。現在、声楽・合唱等の伴奏を務める。

三ツ口朱野：ピアノ

名古屋市立菊里高校、武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。加藤けい子、坂井玲子、ペーター・ショイモシュ各氏に師事。チェンバロを渡邊順生、中野振一郎両氏に師事。伴奏、室内楽、通奏低音などで活躍中。

水野 勝：ピアノ

名古屋芸術大学音楽学部器楽科卒業。河原元世、横山裕、岩田みよ子の各氏に師事。在学中よりピアノ伴奏者として頭角を表す。当団とは、昨年5月に催された『さわやかコンサート』以来のおつきあい。現在「ざざなみ混声合唱団」「カンタービレひまわり」「ミューザヴォーチェ」他、合唱・声楽・器楽の伴奏を精力的にこなしている。なりた作品発表の大半に係わるという奇特な青年でもある。日本音楽審議会愛知県地区審査員。半田市芸術協会会員。セレナピアノ会会員。愛知県立半田東高校非常勤講師。

橋本 剛（ごう）：選曲・構成・編曲

1971年神奈川県生まれ。早稲田大学商学部中退、東京芸術大学音楽学部作曲科を経て、同大学院音楽研究科作曲専攻修士課程修了。G.Manzoni、尾高惇忠、中川俊郎、三善晃各氏に師事。在学中に、パリ高等音楽院学長来日記念公開レッスン代表生、第10回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第1位、及び平成11年度文化庁舞台芸術創作奨励賞（音楽・管弦楽曲部門）受賞。

向川原 慎一：編曲・指揮

1949年名古屋市生まれ。早稲田大学第一政治経済学部卒業。高校時代から合唱に親しみ、大学ではグリークラブでパーティーラー及び学生指揮者を務める。その後も女声・混声・男声合唱の経験を重ねながら、楽器メーカーの音楽教室関係の仕事を経て、現在は本業の会社経営の傍ら作曲及びPTAコーラス・文化センターのゴスペル講座指導などの音楽活動を続けている。

小林研一郎氏に師事。

成田正人（なりた まさと）：作曲・編曲・指揮

学生時代より合唱指揮に携わる一方で作詞・作曲編曲に勤しみ、ここ数年来“生きるということ”を通奏低音とした音楽物語を相次いで発表。代表作に『子犬のチロの物語』『パパの子守歌』『絵描きと少年』『ブチ・ハラハの謎』等。来春には盲導犬チャリティーオペレッタ『ハーネスで握手！』の初演を控えている。女声合唱団「カンタービレひまわり」顧問指揮者。交声合唱団「ミューザヴォーチェ」常任指揮者。ふれあい音楽工房「ミューザトリエ」総合顧問。勤務先は…オ～イ、誰か彼の本職知ってる？

アンサンブル シオン

熱く眩しく降り注ぎ、すみずみまで照らし出す太陽。それに較べて、「月の魅力」って何だろう。

ある時は淡く儂げに、煌く星々の中にあったり、又、ある時は慈愛に満ちた光の手を差し伸べる。時には、近寄り難い冷たさで夜空を支配する。朧月、有明の月等々、数えだしたらきりが無い程の表情を持っている。これぞ「大人の女性の魅力」。そして、その魅力を支えているのが夜の闇。全てを包み込んだ闇が深さを増す程、月の美しさも際だつ。

「アンサンブル・シオン」の仲間達は、前回の合同コンサート参加をきっかけに活動を始めました。家事や子育て、仕事両立。自分や家族の健康問題、突然の夫の転勤…幾つもの難問と戦い、へそくり術で鍛えた知恵で限られた時間をやりくりし、大好きな歌を唱い続けています。その中で、色々な方との出会いや別れがあり、様々な思いが積み重なって、一層、闇の色あいは深まり、濃くなつたようです。周りの人達にも支えられ、味わい深い大人の音楽をめざし練習に励んでいます。

さて、今日のステージの私達、皆様の目にどんな月として映るのでしょうか。

Soprano

葛西みな子 (solo)
郡 由美
山田恵美子

遠藤美和子
野村 昌子
水谷 友香

Mez.sop.

大脇 薫 (solo)
志津美恵子
渡部 泰子

鬼頭 康美
中上 恭子

Ato

加藤 優子
中井千鶴子

兼重トミ子
吉村 眚
都築 彩子

アンサンブル・円

昨年春のコンサートに続き今年もお声をかけて頂いて、大変光栄に思っています。普段17~18名の少人数の女声合唱をしている私達は、混声合唱に憧れても、混声の練習時間が夜なので、仲々経験する事ができません。男声とご一緒だとこんなにもハーモニーに厚みが出るのかと、合唱の醍醐味を嬉しく実感しています。

私達「アンサンブル・円」は雨森文也先生をお迎えし、心機一転、団員一同張り切っています。来年7月20日（祝・金）しらかわホールにて第4回演奏会を開きます。今回、東京から作曲家の青島広志先生をお招きして、演出、ピアノをお願いする事になりました。言葉の中にある感情を、心を伴った表現にして行く事の難しさを感じつつ練習に励んでいます。

グランフォニックの皆さんには本当に歌が好きな方ばかりで、その気持ちが歌を通して伝わり、歌好きにかけては誰にも負けないとと思っていた私達も負けそうです。本日は楽しく歌わせていただきます。

Soprano
穂山 和子 宿野 千鶴 上坊寺真千子
鈴木 直美 関本 昭子 細谷 久子

Mez.sop.
高橋 雅子 田名後正子 濱本すなほ
細見くみ子 堀田 智子

Aalto
家田佳津子 末廣 東子 富田多美子
長谷川厚子

オーネンストリングス

思いつくままに私達のことを・・・

・結成は平成7年秋、指導者（マエストロこと山田純さん）と練習場（名古屋掖済会病院）に恵まれて5年間活動を続けてこられました。

・練習は月2回、日曜日の午前中。在宅率が一番高く、出席しやすいからです。

・唯一定期的に名古屋掖済会病院内でのクリスマスコンサート。来年は初めて、6月9日（土）に自主コンサートを催すことになりました。（無料です）会場は電気文化会館コンサートホール。

曲目 チャイコフスキイ「弦楽セレナーデ」

ハイドン「チェロ協奏曲第1番 ハ調調」

シベリウス「愛する人」 他

・オーディションはありませんが、入団資格は？才以上とか。因みにオーネンは「往年」の意。

・団の組織図、規約はナシ。「音楽をやりたい」という思いだけでどこまでまとまるか？

ホームページ:<http://www.futamura.co.jp/ohnen>

Musical Director

山田 純

Violin

宇都宮 圭 大島 真美 大矢 瞳美
西尾 芳孝 羽藤真理子 篠原 智子
村瀬 享子 村瀬 芳己 村瀬 順子

Cello

武田 和子 玉井 洋子 森田 茂武

Congoncello

小川 幸一 伊村 衛 伊藤 正伸

Bassoon

戸倉 保男

Embaro & Piano

三ツ口朱野

東西四大学OB合唱団東海「グランフォニック」

時は1994年5月15日。名古屋市芸術創造センターにおいて、「東海クローバークラブ・ハートビート・コンサート3」というコンサートが行われました。そのコンサートの主催は東海クローバークラブ(同志社大学グリークラブの東海地区のOB会)でありましたが、そこに慶應義塾ワグネルソサイエティー男声合唱団、関西学院グリークラブ、早稲田大学グリークラブで学生時代に男声合唱にいそしんでいた東海地区在住のOBが加わりステージを構成。ここに始めて、「東西四大学OB合唱団東海」なるものが産声を上げました。

その後、「東西四大学OB合唱団東海」としては始めてのコンサート「東西の青春・三重に集う」が1996年10月20日に三重県総合文化センターで開催され、団として実質的なスタートを切りました。更に、団員の強い声で、1998年1月31日には名古屋市芸術創造センターで第1回定期演奏会「なごやかコンサート」を開催。さらに1回だけでは「定期演奏会」にはならないと、1999年4月17日にはしらかわホールで第2回定期演奏会「さわやかコンサート」を開催。その後も、セントラル愛知交響楽団特別演奏会(フォーレ:レクイエム)、愛知県長久手町のオペラレクチャーコンサート(ビゼー:カルメン)に出演。又、今年の5月には「SINGER'Sなも」とジョイントコンサートを開くなど活動の幅がどんどん広がってきました。そして、本日、第3回定期演奏会である「グランフォニックコンサートⅢ」の開催という事になりました。

さて、今回「グランフォニック」という耳慣れないとお気づきになられたかと思いますが、これは実は新たに我団の「愛称」として付けられた名前なのです。「東西四大学・・・・」は名前が大変

長く呼びづらい、四大学のOB以外のメンバーも増えてきているという事から、何か我団にふさわしい名前はないかと協議をかさね「グランフォニック」という造語を作り上げてしまいました。今後は、この合唱団を「グランフォニック」と呼んで頂ければと思います。英語表記なら「The Granphonic」という事になりますか。もちろん「東西四大学・・・」と呼んで頂いても結構ですが・・

Top tenor

池田 研一	伊藤 高潤	鹿住 誠
片田 保彦	神谷 立正	佐々木正義
高橋 克	田中 良夫	三ツ松 平
向川原慎一		

Sec.tenor

新谷 岳史	飯田 公男	石井 清
伊東 健光	魚谷 庄司	柴田 道昭
富田 久康	間瀬 譲	森重 雅夫
吉居 清		

Barytone

神田 久嗣	黒田 泰男	高見 浩一
永井 一美	成田 正人	西村 一男
長谷川利孝	弘瀬 嘉夫	

Bass

浅井 良之	稻熊 裕之	井ノ口貴敏
外村 俊夫	富田 敏夫	山田 純

THE GRANPHONIC CONCERT Ⅲ

東西四大学OB合唱団東海「グラソニック」

スタッフ

団長	三ツ松 平
幹事長	稻熊 裕之
副幹事長	石井 清
涉外	黒田 泰男
会計	鹿住 誠
法務	井ノ口貴敏

音楽スタッフ

指揮者	向川原慎一
	成田 正人
パートリーダー	
T1	田中 良夫
T2	伊東 健光
B1	広瀬 嘉夫
B2	浅井 良之
演出担当	森重 雅夫

2000・10・1現在

合唱団へのご連絡は

(幹事長) 稲熊 裕之

〒457-0051

名古屋市南区笠寺町西之門10

tel 052-822-7865



1st.STAGE

あなたはどのシュテンченなら心を開いてくれますか?

三者三様Ständchen

編曲:なりた まさと

男声合唱のための歌曲集

夜の静寂 (しづか)に

編曲:向川原 慎一

2nd.STAGE

夜の歌によるコラージュ・メドレー

月光セレナーデ

選曲・構成・編曲:橋本 剛

3rd.STAGE

「パパの子守歌」「絵描きと少年」に続く“愛の三部作”完結編

不破白人 (ふわうと)の恋

作:なりた まさと

合唱:アンサンブル シオン

アンサンブル・円

グランフォニック (東西四大学OB合唱団東海)

弦楽アンサンブル:オーネンストリングス

ソプラノ:橋爪 圭子

メゾソプラノ:夏目 久子

ピアノ:西野 亜理紗

水野 勝

三ツ口 朱野

指揮:向川原 慎一

成田 正人

演出:池山 奈都子

グランフォニック 第3回定期演奏会

2000年10月28日（土）PM4時開場・PM4時30分開演

名古屋市芸術創造センター

全席自由：2000円 お問い合わせ：稻熊 TEL 052(822)7865/FAX 052(822)7876

THE GRANPHONIC CONCERT III

「夢は眠らず」